



でまるごと理解



多言語対応

# LMS選定の ポイント



# はじめに



グローバル化が進んでいる現代企業では、多言語に対応した教育・学習を実施することが求められています。日本国内でも、外国人労働者を受け入れることが当たり前になってきており、言語格差をなくして人材育成・社内研修を行うことが重要です。

eラーニングの実施および管理で使用するLMS（学習管理システム）は、多言語に対応しているものがあり、グローバル展開を検討中の企業は多大なメリットを得られます。

本書では、多言語対応のLMSの基本や必要性、メリットについてまとめ、効果的な導入のための選定ポイントについても詳しく解説します。

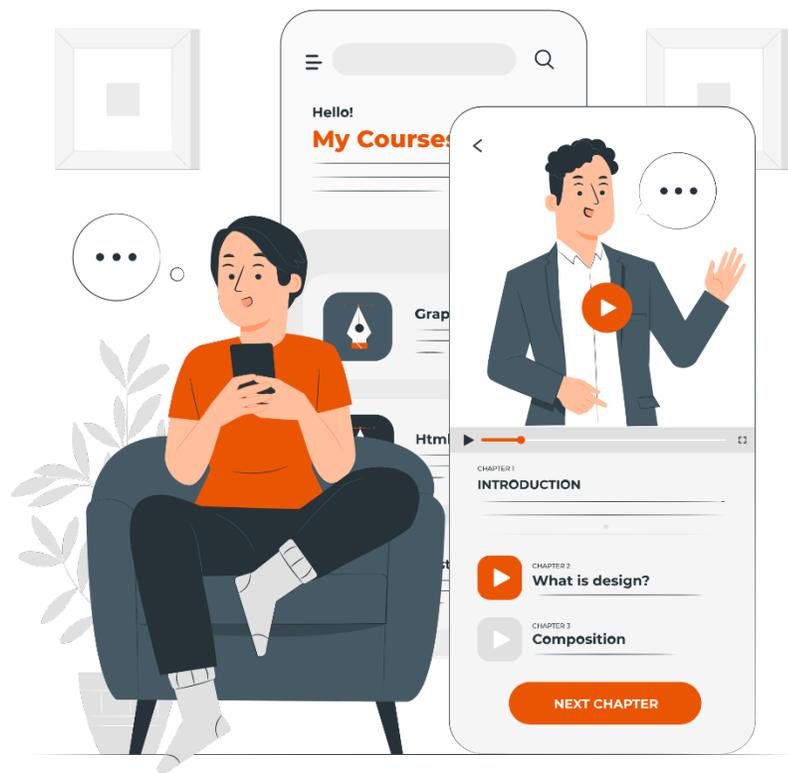
# 目次

1. LMS（学習管理システム）とは
  2. LMSの基本機能
  3. 多言語対応のLMSの必要性
  4. グローバル企業でのLMSの活用メリット
  5. 多言語対応LMS・eラーニングを選ぶ際の4つのポイント
  6. LMSの運用体制
  7. LMSのグローバル対応におすすめ「CrossKnowledge」
- おわりに
- CKLMSのご紹介

01

# LMS（学習管理システム）とは

# 1. LMS（学習管理システム）とは



LMSとは、Learning Management Systemの略であり、日本では学習管理システムと呼称されることがあります。eラーニングを実施する際にベースとなるシステムであり、学習教材の配信やテストの実施、成績などを統合して管理することが可能です。インターネットを通してパソコンやスマートフォンなどを利用して学習ができ、時間と場所に捉われない柔軟な教育が実施できます。

LMSには、受講者がログインして学習する受講機能をはじめ、講師や研修担当者が学習者の受講履歴やテスト結果などを管理できる機能などが備わっています。

LMSはその名前から学習を管理するシステムと思われがちですが、本来の目的は学習者にとって学習しやすい環境を提供することです。いつでもどこでも、自分のペースで学習できる機会を創出することで、学習者のモチベーション維持と効率的な学びをサポートします。

02

# LMSの基本機能

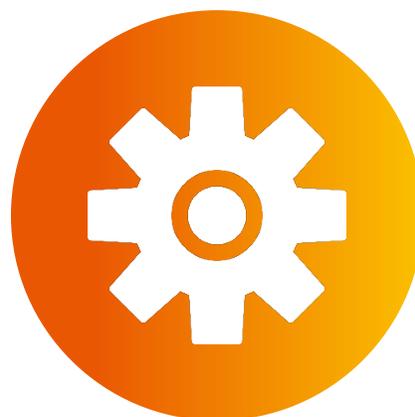
## 2. LMSの基本機能

LMSには、管理者と学習者双方にとって利便性の高い機能が標準装備されています。LMSの基本機能は以下のとおりです。



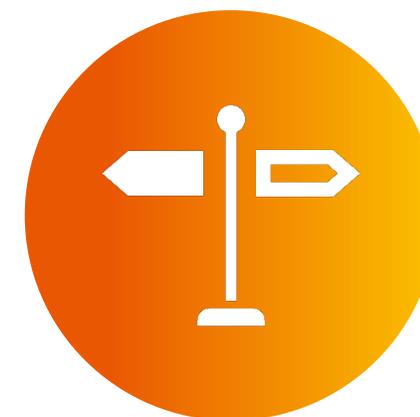
### eラーニング機能

教材の配信および受講が可能です。具体的には、対象の受講者や学習コンテンツの内容、配信期間などを細かく設定することができ、企業のニーズに合わせたカスタマイズにも対応しています。



### 管理機能

受講者ごとの進捗管理や組織全体の学習状況の管理、テストの実施や成績確認など、教育を効率的に実施する管理機能が備わっています。



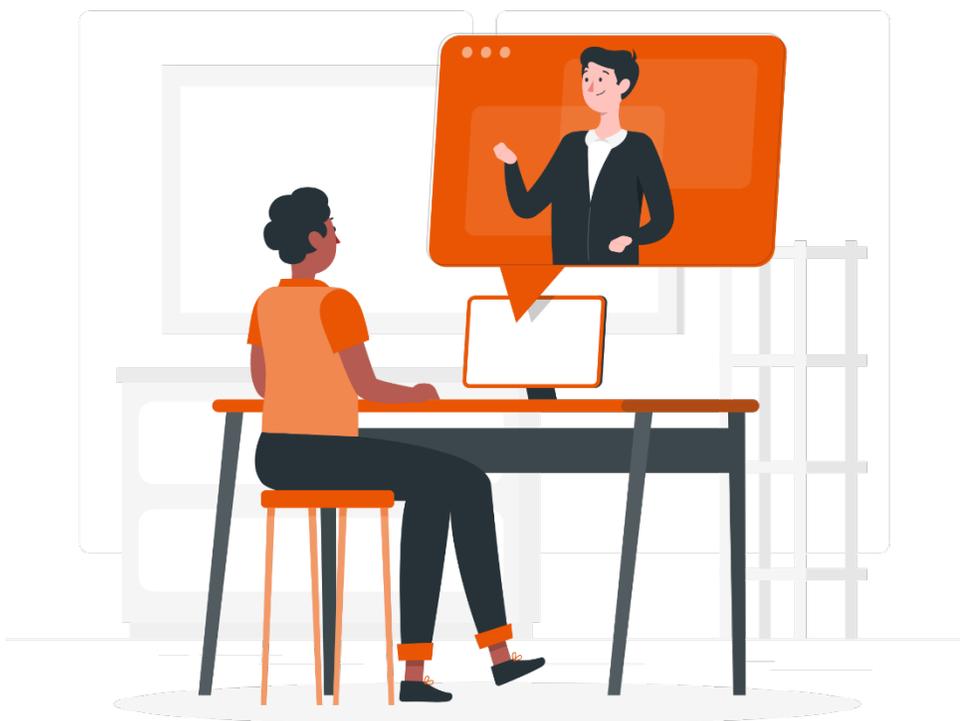
### 教材作成機能

テキストや動画などの素材を基に教材を作成する機能です。LMSによっては、素材を読み込むだけで教材を自動的に作成してくれます。これにより、教育・研修担当者の負担軽減に繋がります。

03

## 多言語対応のLMSの必要性

### 3. 多言語対応のLMSの必要性



IT技術の発展や国際関係の変化により、幅広い分野・業種でグローバル化が進んでいます。

近年は、海外から日本に進出する外国人労働者が増えており、企業では言語の壁を越えた教育が求められます。グローバルに展開したいと考えている企業であれば、日本人労働者だけではなく、外国人労働者に対する教育・人材育成も考慮することが必要です。

日本人労働者と外国人労働者に対して研修を行う場合、従来の集合研修では多言語に対応した講師や教材を手配する必要があり、膨大な手間とコストがかかります。

しかし、多言語対応のLMSであれば学習者ごとに表示言語を切り替えられるため、個別に講師や教材を用意する必要がありません。LMSによって対応する言語が異なるため、自社の状況やニーズを見極めた上で最適なシステムを選定することが大切です。

04

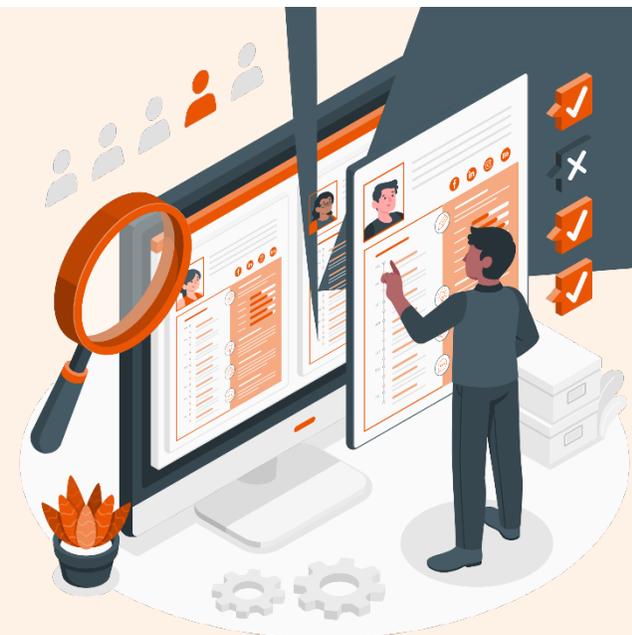
# グローバル企業での LMSの活用メリット

## 4. グローバル企業でのLMSの活用メリット

前のページで述べた通り、企業がグローバル展開する際には、組織内での効率的な情報共有やスキルの向上、パフォーマンスの管理をすることが求められます。そこに活用できるツールが多言語対応しているLMSです。

次のページから、多言語対応のLMSを活用することによるメリットを紹介します。

- メリット① **学習の一貫性を保てる**
- メリット② **自律的な学習の姿勢を育める**
- メリット③ **リソースが利用しやすく、コスト削減につながる**
- メリット④ **効果測定と改善がしやすい**
- メリット⑤ **人事戦略・人事システムとの統合が可能**
- メリット⑥ **国に捉われない人材の確保が見込める**
- メリット⑦ **国際文化を尊重・配慮しているアピールが可能**



## 4. グローバル企業でのLMSの活用メリット

### メリット①

#### 学習の一貫性を保てる

グローバルに展開する企業におけるLMS導入の最大の利点は、世界中にいる社員が同じ教育とトレーニングを受けられる点です。多言語LMSを導入し、幅広い言語に対応することですべての従業員が国籍や出身地に関係なく同じ教育を受けられるようになります。

LMSにより一貫したトレーニングと教育を提供することは、大事にしている考え方や仕事の進め方、組織文化など企業全体で統一された運用を図る上で重要です。これにより、組織の効率と生産性を向上させることにつながります。



### メリット②

#### 自律的な学習の姿勢を育める



個々の学習者が自分のペースで学べるため、より深い理解やスキル習得が可能です。

新しいガイドラインや複雑な内部プロセス、さらには新しい技術やシステムについて学習する際でも、個人の理解度に合わせた段階的な学びを通じて理解を深めることができます。

## 4. グローバル企業でのLMSの活用メリット

### メリット③

#### リソースが利用しやすく、コスト削減につながる

時間や場所に関係なく全ての社員に教育コンテンツを提供することができます。これによって、社員は必要な時に必要な情報を即座に手に入れることが可能です。

また、全ての教育資源がデジタル化されているため、物理的な教材の製造や配布にかかるコストがなく、全ての社員に瞬時にトレーニングを提供することが可能です。

これにより、訓練セミナーや会議のための移動費用や宿泊費用といった追加費用が不要になります。



### メリット④

#### 効果測定と改善がしやすい

LMSの大きな利点の一つは、学習者の学習行動データの分析により、トレーニングや教育がどれほど効果的であったかを簡単に追跡し、評価できることです。学習活動、テスト結果、進行度、参加率などを自動的に収集し分析することにより、教育プログラムの効果を定量的・定性的に測定することができます。

そして、教育やトレーニングは一方通行の学びではなく、社員からのフィードバックを受け取り、それをもとに教育内容を改善していくことが重要です。LMSはリアルタイムでフィードバックを受け取り、分析し、それをもとに教育プログラムを順次改善することが可能です。



## 4. グローバル企業でのLMSの活用メリット

### メリット⑤

#### 人事戦略・人事システムとの統合が可能

パフォーマンス管理、タレントマネジメント、後継者育成などの戦略的な目標を達成するためにも、LMSは有効なツールです。

個々の社員の強みや啓発点、成長の可能性を可視化することができます。

各種人事管理システムやタレントマネジメントシステムとデータ連携することで、より戦略的な人事管理と人材育成を推進することができます。



### メリット⑥

#### 国に捉われない人材の確保が見込める

グローバル化が進む現代では、国や地域に関係なく人材が確保できるようになりました。

新たな国に進出する際は、その国の言語で学習できるようにすれば、その土地の即戦力となる優秀な人材の確保に繋がる可能性があります。

国境や言語に捉われない学習を提供できる環境を整えておくことで、あらゆる国で幅広く展開が可能です。



## 4. グローバル企業でのLMSの活用メリット

### メリット⑦

### 国際文化を尊重・配慮しているアピールが可能



多言語対応のLMSを導入することで、従業員に対して国際文化を尊重している企業であることをアピールできます。

例えば、従業員が親近感を持てるような動画や写真などを含めた教材の利用が、従業員のエンゲージメント向上を促進します。

また、こういった取り組みは、企業として包括的な文化を創り出すことに繋がり、従業員にとっても働きやすい環境を構築します。

05

# 多言語対応LMS・ eラーニングを選ぶ際の 4つのポイント

## 5. 多言語対応LMS・eラーニングを選ぶ際の4つのポイント

多言語対応が可能なLMS・eラーニングを選ぶ際には、以下の4つのポイントを考慮すると良いでしょう。

### POINT①

### 対応言語の範囲

対応している言語の数と種類をチェックします。

学習者がどの言語を話すかを考え、対応しているか確認しましょう。

### POINT②

### コンテンツの質

翻訳が正確であることはもちろんですが、各国・地域の表現方法や文化を理解できる翻訳者によるローカライゼーションがされているかも重要なポイントです。

例えば、日付や通貨の表記、地域固有の法令規制などを反映することなどがあたります。

### POINT③

### ユーザビリティ

学習者が自分の言語でシームレスに使えることが理想的です。

コンテンツの多言語対応のみならず、ユーザーインターフェースも多言語に対応しているかを確認しましょう。

### POINT④

### カスタマイズの可否

用意されている学習コンテンツのみならず、自社オリジナルの動画やファイルなどのコンテンツの搭載や、理解度クイズの作成やSNS機能を活用したソーシャルラーニングなど、効果的な学習デザインが柔軟にできるかどうかを確認しましょう。

これらのポイントを考慮しながら、学習者のニーズと目標に最も適した多言語対応LMS・eラーニングを選ぶことが重要です。

## 5. 多言語対応LMS・eラーニングを選ぶ際の4つのポイント

# 多言語対応LMS・eラーニング供給の実情



多言語対応可能なLMS・eラーニングについては、国内の研修会社やベンダーでは供給が難しいのが実情です。

国内ベンダーのLMS・eラーニングは、主に日本人向けになっています。そのため、一部英語や中国語に対応しているものもありますが、日本語対応が基本となります。英語や中国語以外の多くの言語には、対応しきれていないケースがほとんどです。

多言語対応可能なeラーニングの利用を想定する場合には、海外ベンダーのLMS・eラーニングで日本語にも対応しているものを導入することが現実的です。

06

# LMSの運用体制

## 6. LMSの運用体制

LMSの運用体制は、組織の規模や構造によって異なりますが、大きく分けて本部と各リージョン（支部：地域組織やブランチオフィス）で役割を分けた運用が一般的です。



### 本部（ヘッドクォーター）

本部では全体戦略やポリシーの立案、教育プログラムの企画、LMS全体の管理に責任を持つことが一般的です。

一貫性を保つためには、教育内容や運用方針を本部が統括することが重要です。また、本部はリージョンのパフォーマンスをモニタリングし、必要に応じてフィードバックや改善を行います。



### 各支部（リージョン）

リージョンでは、本部から提供されたコースや資源をローカルの社員に指導し、独自の必要性に合わせてカスタマイズする役割を果たします。

リージョンにおけるLMSの運用担当者は、現地の法令、文化、言語などを理解しているため、内容を最適化し、現地の社員にとって適切な形で提供することが可能です。

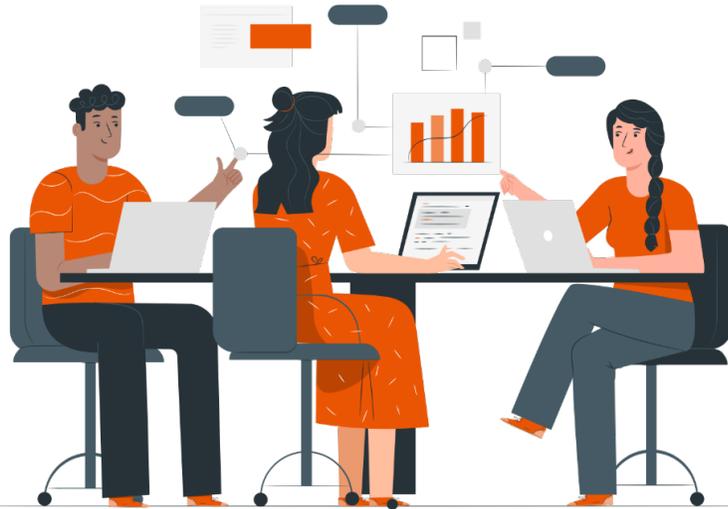
## 6. LMSの運用体制

このような分担体制により、企業全体の統一性と一貫性を保ちつつ、地域ごとの特性やニーズに合わせた教育を提供することが可能になります。

ここでのポイントは、**本部とリージョンで同じLMS（プラットフォーム）を使用**することです。本部は本部、各リージョンはリージョンで、それぞれの別のLMSなどで運用すると効果的な運用が実現できません。

同じLMSで運用することで、本部のコンテンツをスムーズにリージョンに配信したり、リージョンが独自に行っている教育コンテンツの内容を本部がモニタリングできたり、という連動が可能になります。

ただし、運用体制は企業の規模や特性により異なるため、組織のニーズに合わせた体制を検討し、適切な人材を配置することが重要です。また、本部とリージョン間のコミュニケーションを確保し、円滑な運用を実現するためにも、定期的なミーティングや情報共有が必要となります。



07

## LMSのグローバル対応におすすめ 「CrossKnowledge」

## 7. LMSのグローバル対応におすすめ「CrossKnowledge」



これまで紹介してきた多言語対応LMS選定・活用のポイントを踏まえて弊社がおすすめするのは、「CrossKnowledge」のLMSです。

CrossKnowledgeはフランスに本社を置くグローバル企業で、企業が社員のスキル開発を支援するためのデジタル学習ソリューションを提供しています。

学習コンテンツは最大8言語に対応しており、マネジメントスキル、ビジネススキルを中心にさまざまなテーマをカバーする豊富なコンテンツがあります。また、最大28言語に対応している革新的な学習プラットフォーム（LMS）を提供しています。

特徴の1つは、その対応言語の多さと翻訳のクオリティです。CrossKnowledgeは自社と各国のパートナーと連携して翻訳・ローカライゼーションを行い、その教材を母国語で学べるようにすることで、理解を促進します。用語やフレーズ、概念などは一貫した意味を持つように注意深く翻訳されていて、学習コンテンツもそれぞれの文化的背景に配慮したものになっています。

# おわりに

本書では、多言語対応LMSの活用について詳しく解説してきました。

グローバル化や国際関係の変化が進む現代で人材育成を行うのであれば、多言語に対応したLMSは欠かせません。通常のLMSを活用するだけでも企業と従業員にとってメリットとなり得ますが、多言語に対応することでその幅をさらに広げることができます。外国人労働者がいることが当たり前の社会で、その学習ニーズに応えられる環境の整備は企業にとっても強みとなるはずです。

LDcubeでは、オンライン学習管理システム「CrossKnowledge」を提供しています。充実した教育コンテンツをラインナップしており、グローバルに通用する高品質な学習環境が利用可能です。提供する教育コンテンツは、有名ビジネススクールが監修した内容になっているため、幅広い企業で役立てられます。

無料でのデモID発行や導入事例の紹介なども行っていますので、お気軽にご相談ください。

# eラーニング・学習管理システム『CrossKnowledge』

クロスナレッジ(CK)社（本社:フランス）が開発し、世界中に1,200万以上のユーザーが存在します。

ビジネスにおいて基礎となる内容から、専門性を磨くeラーニングまで幅広いジャンルに対応するeラーニングで企業内学習をサポートします。

学習管理システムは日本語・英語・中国語をはじめ多言語に対応しており、研修運営における事務局負担を軽減します

## 豊富な学習コンテンツ

- ✓ 標準46コース
- ✓ ソーシャルラーニング
- ✓ eラーニング受け放題
- ✓ マイクロラーニング  
(世界MBAレベル講義動画)
- ✓ 一般コース（日本国内向け）
- ✓ PDU取得コース
- ✓ スキルパス
- ✓ サステイナビリティ  
(SDGs) コース

## 多彩な学習システム

- ✓ 学習管理システム（LMS）
- ✓ エンゲージメント向上（CK-Connect）
- ✓ 自社学習ポータル設計（Learning Channel）
- ✓ 研修管理サポートツール（Blendedx）
- ✓ グローバル対応

# 会社概要・問い合わせ

## ABOUT US

会社名	株式会社LDcube
代表者名	代表取締役 新井澄人
所在地	〒101-0029 東京都千代田区神田相生町一番地 秋葉原センタープレイスビル8F
事業内容	組織の活性化、人材育成並びに営業強化のための 各プロダクト並びに関連サービスの販売・提供
設立	2023年4月
資本金	3,000万円

## CONTACT

ご不明な点やご質問・ご相談がございましたら  
お気軽にご連絡ください。



03-3525-7002 (平日9:00~17:30)

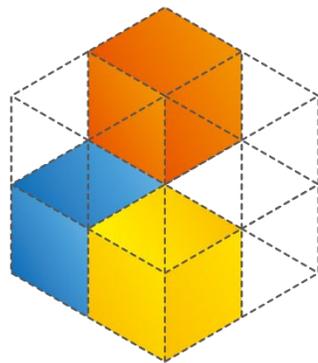


<https://ldcube.jp/contact>



<https://ldcube.jp/>





学 び に 発 展 と 奥 行 き を

# LDcube

Learning Development × Design × DX